

## 4時から夢塾 =第13回「4時から夢塾」=

12月26日(水), アルカディア小ホールで, 長岡赤十字病院の田中 篤先生から「学校不適應の子どもたちへの対応」をテーマにご講演をいただきました。以下, 講演の骨子です。



- 不登校・不適應状態を山登りに例え, 外来に来るのは遭難しかけた時にすることと同じ。
- 子どもの症状の持つ意味…症状とは入場券みたいなもの。症状は呼子笛 SOS。問題解決の手段。
  - ・子どもの内的ドラマの熱心な立会人として, まず大切なことは先入観念を持たない。無知の姿勢。
  - ・他人を理解することは簡単ではない。安易な「受容・共感」をしていないか。
- その子の身になって話を受け止める…自然に引き出す聞き方の技術「アクティブ・リスニング」
- 最後の一粒…些細な出来事が大病の引き金を引くことがある。不登校も単純な原因ではない。
- 不登校において大切なこと…子どもが変わることは難しい。自分を変えることに挑戦すること。
- 子どもの語り・物語を尊重して受け止める…子どもの発する症状・問題行動の背景にある心の状態を理解しようとし続けることが問題解決には必要不可欠。対応よりも理解がまず求められる。
- 思春期は誰にとってもややこしい季節…身体と心の無自覚的な急激な変化。第2次性徴。自意識の高まり。自立のテーマ。アイデンティティーの危機。同年代・同性の親密な交友関係等が起こる。
- 10歳も目立たないが変革期で要注意の時期: 10歳の壁
  - ・思春期がやってくる前に, 土台の修復をしなければならないとささやかなサインが出ることもある。
- 愛着・アタッチメントとは: 誕生直後から形成される母親に対する本能的な結びつき, 接近行動。
  - ・今の多くの子どもの見られるのは母親との関係(=愛着形成)が貧弱のまま成長させられている。
- 軽度発達障害の子どもにとって思春期・青年期はもっと大変な季節 (ADHDの子どもの生き難さ)
- 不登校と自己肯定感や自尊感情の低下…もともと愛着形成不全状態や様々な外傷体験, 人との関わりの中で, 自己肯定感や自尊感情が低下をしている。
- 子どもを無理やり変えようとするのは難しい。まずは関わる大人が変わること。
  - ・名医と言われる医師は, 病気を患っている人の身体と心にずっと近づき良好な人間関係を形成することができ, その人の持っている自己治癒力・回復力を引き出し, 大きく育つように関わっている。
- 問題を抱えた子どもの心に寄りそうために積極的に行うべきこと。
  - ・良好な関係の樹立 (パートナーシップ) と, 子どもに親近感を感じさせること⇒ラポールの形成。
- 子どもとしっかりつながるために大切なこと…子どもとの関わりは時間の長さよりも質と深さ。
- 子どもは社会の鏡…子どもの心身からの症状は, 社会に対する問題提起。



### <参加者の声>

- 対応ばかり考えてしまうが, 理解することが最も大切であるという子どもへの接し方が分かった。
- 辛いのは子ども。少しでも気が楽に過ごせるように先を急がずゆっくりと関わって行こうと思う。
- 教員として親として, 一人の大人として子どもとどう向き合うか分かり易く示していただき感謝。
- 医師から子どもの話を聞くのはとても新鮮で分かり易かった。次年度も田中先生の話を知りたい。